



◇指導方法(目標と指導内容)

1年次 3年生の進路の学習に合わせて、卒業生の進路先について知り、自分が今興味があること、得意なことを踏まえ、自分の将来の夢を持つことができる。

(進路先についての学習)

2年次 進路先への訪問、体験入学、職場見学をすることにより、自分の進路について考えたり、自分の良さや友達の良さに気づいたりできる。

(体験入学・施設見学・立志のつどい・将来の夢の作文作り)

3年次 自分の進路決定にあたり、周りの人達が支え協力してくれていることに気づくことができる。職場実習を通して、働くことの喜びや厳しさにふれ、今伸ばしたい自分の力に気づくことができる。

(体験入学・面接練習・職場実習・入学選考に向けての学習・進路を語る会)

各学年別の学習と学年を超えて、全体で行う学習を組み合わせる。途中、社会体験学習や行事を通して、余暇の利用や公共機関、公共の交通手段の利用についても学習していく。

◇指導のねらい

- ・自分の進路決定するに当たり、自分の良さを考えることができる。
- ・自分の今興味あること、得意なことを踏まえ、将来の夢を持つことができる。
- ・働くことの厳しさや喜びを知り、今やらなければならないことに気づく。

◇指導の評価

- ・進路の学習が、3年次だけの学習にとどまらず、下級生や保護者の知識としても積み重なっているよう配慮できた。
- ・自分自身の良さについて考え、自己肯定観を持つ機会とすることができた。
- ・自分の障害について考え、自分の短所への理解や長所への自信を深めることができたと思われる。(今後も継続するのであろうが)
- ・自分を支えてくれる家族や友達など、自分の周りの人の支えに気づき、感謝の気持ちをもつ機会となった。

・指導の流れを計画・調整するには、時間や手間がかかる。個々の良さを捉えて、個々に計画していくことには、組織的な協力がいる。実習先の開拓や進路先の開拓、世間の景気動向など様々な要因が、指導計画に影響してくるので、臨機応変な対応が必要。

・思春期の子供達の個々の悩みや表れに翻弄されてしまうことも多い。生徒の言葉の表れだけでなく、本当に望んでいることを見極め、進路決定に生かしていきたい。

・外部の機関・卒業生の話・実習先での指導など、日頃接していない人達からのアドバイスが有効な時がある。